

# オック語音韻論粗描

篠 木 平 治

Ebauche de phonétique historique occitane  
Héiji Shinogui

## Résumé

Citons d'après J. Ronjat quelques traits phonétiques essentiels qui différencient l'occitan des autres langues romanes.

1. Absence ou rareté des voyelles fermées [*a*, *o*, *œ*] (s'opposant à fr. fpr.), ce qui est une des caractéristiques les plus saillantes de l'occitan.

2. Voyelles nasales conservant très généralement le timbre de la voyelle orale correspondante (par opposition à fr. fpr.), ce qui est encore un trait particulièrement important de l'accent du Midi.

3. Palatalisation de *u* latin en [*ü*] (s'opposant à cat. esp.) est un trait général de l'ensemble du gallo-roman.

4. Diphtongaison de latin *ē*, *ō*, uniquement conditionnée par la séquence d'un yod ou d'un [*w*] (en face de fpr. esp. fr. it.). Autrement ces deux voyelles se conservent: *mēlius mielhs*, *deu diu*; *octo ueit(-ch)/uoch*, *bōve buðu*, et pas de diphtongaison des voyelles de latin vulgaire [*ē*, *ō*] fermées (contrairement à fpr. fr. it. dialectal): *fīde fe*, *flōre [flur]*.

5. Fermeture jusqu'à [*u*] de latin vulgaire [*o*] (en face de cat. esp. fpr. it.) et celle de [*o*] prétonique jusqu'à [*u*] en toute position, comme en français et en catalan (s'opposant à esp. fpr. it.).

6. Maintien, hors cas particuliers, de latin *ā* (en face de fr.), quelles que soient les précessions (en face de fpr.): *pratu prat*, fr. *pré*, fpr. *pra*; *capra cabra/ch-*, fr. *chèvre*, fpr. *chievre*.

7. Solidité du *-a* final atone, amuï en français, et des voyelles prétoniques [*e* ou *ə*], syncopés en français: *porta porta*, fr. *porte*; *seminare semena/semia*, fr. *semer*.<sup>(1)</sup>

オック語の方言地域の画定に関しては、P. Becによれば、この地方は四つの大きな方言的実体に分割されるが、このうちカタロニア語は別の機会に扱うこととする。

A) 北部オック語: オック語地方を二つに分割するのはラテン語の *ca*, *ga* が *cha* (*tša*), *ja* (*dja*) に口蓋化するか否かである: *castellu chastièl(-èu)/castèl*, *-èu*, *plaga plaja/plaga*.

1) 低地リムーザン方言では全体的に *ct* が *ch* に移行し、フランス語の *ch* に対応する *ts* の音となる: *nocte nuech*, fr. *nuit*, *cantare chanta* [*tsanta*], fr. *chanter*.

2) オーヴェルニュ方言: 最も顕著な特徴はあらゆる子音に波及する一連の口蓋化である。: *vinea vyinha*, *quietare tyita/tsita/tsita*, etc. 古典語の二重母音の縮約も低地オーヴェルニュ方言の特色である: *pater pere*, *aqua iga*.

3) ヴィヴァロ・アルパン方言には、特に動詞の語形に現れるラテン語の無強勢母音 *-o* の保持などフランコプロヴァンサル方言と共通する特長がある。

B) 南部オック語: ラングドシアンとプロヴァンサルに二分され、1) ラテン語の *ca, ga* などの保持。2) 二重母音と三重母音の堅持: *sale sau, \* postiu puei*。3) 一般に子音の口蓋化がないことなど共通する特徴をもつ。

プロヴァンサルは、1. <不安定な> *-n* の保持: *pane pan*。2. 語末子音 *l* の母音化: *bellu bèu*。3. 語末子音の消失 (cf. *lupa lo(p), celt. beccu bè(c)*) などによってラングドシアンと区別される。

C) ガスコニュー方言: この方言は他のオック語方言とはっきり区別され、実に独特な音韻変化をたどった。主な特徴を要約しよう:

1. 唇歯音 *f* は単なる気音 *h* に変わる。
2. ポルトガル語と同様に、母音間の *n* が脱落する: *luna lua*。
3. 強く発音される語頭の *r-* は *arr-* の語形として現れる: *rivu arriu*。
4. 重複子音 *ll* は語末では *th[t]* に、母音間では単子音 *r* となる: *vitellu vedèth(-t); bella bèra*。
5. 子音群 *mb, nd* は *m, n* に単純化される: *camba cama, intendere entèner*。
6. 語末の *-l* は *-u* に母音化し、先行する母音と二重母音を成す: *mel mèu*。(2)

(1) Cf. Jules Ronjat, *Grammaire Historique des Parlers Provençaux Modernes I-II*, Société des Langues Romanes, Montpellier, 1930, § 4.

(2) Cf. Pierre Bec, *La langue occitane*, 《Que sais-je?》, Sixième édition corrigée, Presses Universitaires de France, Paris, 1995, pp.34-50.

## A. 無強勢母音

### I. 語頭の母音

#### 1. A (古典ラテン語の *ā, ā*)

語頭の無強勢母音 *a* は保持される: *caballu cavau, cabal*(l. rouerg.), *chavau, chaval*(lim. a.), it. port. *cavallo*, esp. *caballo*, roum. *cal*, fr. *cheval*,<sup>(1)</sup> *angustia anguisso*,<sup>(2)</sup> it. *angoscia*, fr. *angoisse*。

しかし、語頭の *a* が異化作用によって *e* に変化することがある: *natale, nedau*(b.), *nadau, natau, nadal*(l.), it. *natale*, fr. *noël*。

一方、語頭の *a* が添加されることもある: *rivu arriéu*(g.), *riéu*, esp., port. *rio*, roum. *rîu*, afr. *ri(f)*, harena(germ. hring) *arengo, alengo*(d.), it. *arringa*, esp. port. *arenga*, fr. *harangue*。

#### 2. E (古典ラテン語の *ĕ, ae, ē, ì*)

語頭の *e* は原則として保持されるが、地中海沿岸地方やアルル、アヴィニオン地方などでは唇音が隣接してつづくときは *e* が [*i*] に変わることがある: *fēmella fumello*, afr. *fumelle*, fr. *femelle*, *piscare pusca*, it. *pescare*, esp. port. *pescar*, fr. *pêcher*。

ベアルン方言では *meliore* から *milhou* の語形が生じている。これは *t* の前で *e* が *i* に移行する一種の母音変異であり、隣接してつづく口蓋音によって引き起こされる舌の位置の上昇に由来するものである。フィレンツェ方言にも見られる音韻変化である。<sup>(3)</sup> さらに語頭の *e* は口蓋音の後で *i* に変化することがある: *caementu ciment(-fr.)*,<sup>(4)</sup> *cement*(lim.), it. *cimento*, esp. *cimiento*, etc.

ラングドック、ガスコニュー地方では、語頭の *e-* が異化作用によって *a-* となる語形がある: *episc(o)pu avesque*(rh.), *ab-*(l.g.), fr. *éveque*, *gelare jara*(a.), it. *gelare*, esp. *helar*, port. *gear*, fr. *geler*。さらに、アルル、アヴィニオン、ポルドーやドフィネ地方などでは *seminare* から *samena*

が現れるが、これは語頭母音 *e* が強勢母音 *a* に同化し、強勢母音の前の二つの母音 *ē/i* 間の異化が同時に作用したとも考えられる。<sup>(5)</sup>

ペアルン、リムーザン、ドフィネ、ガスコーニュなどの方言では、\* *presione* (<prehensione) から *e* あるいは二重母音 *ei(ai)* をもつ語形 *presou(n)*, *preijou*, *preisou*, *praison* が現れるが、ラングドック、オーヴェルニュ方言では *i* をもつ語形 *prisou*, *prisu* が生じる。後者の語形では、語頭の母音が過去分詞 *pris*(= \**presu*) の影響を受けたが、*pris* 自身もこの動詞と *mis* などの型の単純過去の語形の影響によるものである。<sup>(6)</sup>

### 3. O (古典ラテン語の *ō, ō, ū*)

すべての *o* は原則として古プロヴァンス語では *o* であり、14世紀以後 *ou* の綴りが現れる<sup>(7)</sup>: *dōnare douna*, it. *donare*, esp. *donar*, port. *doar*, fr. *donner*, etc.

アキテーヌ地方では古くから [*ō*] が [*ū*](*[w]*) と [*ō*] の前で *ā* に異化している: *novellu nauēt(g.)*, *nabēt(b.)*, it. *novello*, fr. *nouveau*, etc.

ラングドック、ギュイエヌと特にアキテーヌ地方のほとんどすべての方言で、語頭の自由母音 *ou* が後につづく *ou* に対して *au* に異化するケースが多い: *honore aunou(g. b.)*, it. *onore*, aesp. afr. *onor*, *odore audou(l. g. b.)*, it. *odore*.

一方、語頭の *o* が後につづく *ou* に対して *e(i)* などに異化することもある: *sorore serou(d. b.)*, *sorre*, *souorre(rouerg. niç.)*, ait. *suoro*, aesp. aport. *sor*, roum. *sora*, fr. *soeur*, unione *ignou(n)*, fr. *oignon*.

### 4. U (古典ラテン語の *ū*)

一般に無強勢母音 *ū* は *u* として保持されるが、語頭の *ū* は *i* に変化することがある: *rumore rumour*, *rimour(rh.)*, it. *rumore*, afr. *remour*, esp. port. *rumor*, *humore umour*, *imour*, *imou(l.)*.

*frumentu* では *ū* は *m* の前で *o* に移行し、*froument*, *fourment(d.)* となった (cf. it. *frumento*, aesp. *hormiento*, fr. *froment*<sup>(8)</sup>).

### 5. I (古典ラテン語の *ī*)

語頭の *ī* は保持されるが、ヴオー、アルプス、ランド地方では、語頭の *i* に隣接してつづく *b* は *i* を *u* に唇音化し、ヴレ (Velay) 方言ではおそらく統辞上の母音接続から生じた [*yū-*] の語形がある<sup>(9)</sup>: *hibernu uwèr, -m, -rt, iuwèr*, it. *inverno*, esp. port. *invierno*, roum. *iarnă*, fr. *hiver*.

*primariu* からは語頭の長母音 *ī* の短縮による *premier* と、*primu*>*prime* の影響による語形 *primier* とが生じた (cf. ait. *primaio*, esp. *primero*, port. *primeiro*, roum. *primar*, fr. *premier*). なお、ペアルン方言では *prümyé* であり、かつてフランス語から借用した *premier* と二重語を成した。*prümyé* の *ü* は隣接する唇音 *m* の影響である。

*finire* からは特にアルル、アヴィニオン、ニースなどの方言に現れる *feni* と *fine*>*fin* の影響を受けた *fini* の語形が現れる。<sup>(10)</sup>

## II. 強勢母音に先行する語中の母音

1. 強勢母音に先行する語中の母音 *a* は保持される: \**tropatōre troubadou(r)*, it. *trovatore*, esp. *trobador*, port. *trovador*, monasterieu *mounastié*, it. *monastero*, esp. *monasterio*, port. *mosteiro*, fr. *moutier*(< \**mosteriu*).

この *a* の保持は未来形の形成にもみられる: *saperáyo*(< \**sapere habeo*) *saurai(-fr.)*, it. *saprò*, esp. *sabrè*, port. *saberei*.

2. *a* 以外の母音は消失することがある: *ma(n)si(o)nat(i)cu meinage*, esp. *menage*, \**domn(i)cellu*

*dounzèu*, -l(l.), fr. *damoiseau*,<sup>(11)</sup> \*disj(u)nare *dina*,<sup>(12)</sup> fr. *dîner*.

しかし、*a* 以外の母音が保持されることも少なくない: *fabricare favrega*, esp. *fraguar*, port. *fragoar*, roum. *fereca*, fr. *forger*, \*quadriřurcu *caire-fourc*, fr. *carrefour*, capriřoliu *cabrifuei*, it. *caprifoglio*, roum. *căprifoiu*.<sup>(13)</sup>

### III. 強勢母音につづく語中の母音

オック語では語末音節か語末から二番目の音節にしか強勢アクセントはない。従ってオック語はラテン語のプロパオクシトンをパロクシトンあるいはオクシトンに縮約している。次末音節の母音が保持され、場合によっては、語末音節が保持されるが、この場合は、強勢アクセントは元の次末音節に移動する<sup>(14)</sup>: *lacrima lagrêmo*, it. *lacrima*, esp. port. *lagrima*, roum. *lacrămă*, afr. *lairme*, fr. *larme*, mastico *mastegue*, it. *mastico*, esp. *masco*, port. *mastigo*, roum. *mestec*, fr. *mâche*.

もし次末音節の母音が保持され、語末母音が消失するときは、アクセントは移動することもあり、移動しないこともある: *plangère plagne*, it. *piangere*, roum. *plînge*, fr. *plaindre*, tepidu *tebés*, it. *tepido*, esp. port. *tibio*, fr. *tiède*.

プロパオクシトンでは、次末音節の保持は、母音の性質と母音に隣接する子音の状況によって一様ではないが、一般に保持され、すべての母音が *e* となる: *marginè marge*, it. roum. *marginè*, persicu *pessègue*, it. *persico*, esp. *persigo*, port. *pessego*, roum. *piersèc*, afr. *persègue*.

隣接する子音が同じであっても、母音の相違によって、次末母音は保持されることもあり、消失することもある: *lampada lampeso*, it. esp. port. *lampada*, fr. *lampe*; limp(i)du *lindo(-it.)*, esp. *limpio*, port. *limpo*, roum. *limpede*.

一方、次末母音 *a* は消失することもあり、*e* に変化することもある: *col(a)p(h)u cop*, it. *colpo*, fr. *coup*; *Stephanu Estève*, it. *Stefano*, esp. *Esteban*, fr. *Etienne*.

強勢母音につづく二つの母音は、二つの母音が消失することもあり、次末母音だけが消失することもある: *nit(i)du net(-fr.)*, port. *nedeo*, roum. *neted*; *lep(o)re lèbre*, it. *lepre*, esp. *liebre*, port. *lebre*, fr. *lièvre*.

### IV. 語末の母音

オック語はカタロニヤ語やフランコプロヴァンサル語と並んで、ほとんど *a*, *o*, *u* しか保持しないスペイン語、さらに、ほとんどすべての語末母音を消失するフランス語との中間に位置する。オック語ではほとんどすべての語末母音 *a* が *o* として保持される一方、*a* 以外のすべての語末母音が消失する: *dub(i)tat douto*, it. *dubita*, esp. *duda*, port. *duvida*, fr. *doute*; *octo ue(ch)*, it. *otto*, esp. *ocho*, port. *oito*, roum. *opt*, fr. *huit*.

しかし、動詞の活用では *-o* は *-e* として保持される: *dub(i)to doute(-fr.)*, it. *dubito*, esp. *dudo*, port. *duvido*, amo *ame*, it. esp. port. *amo*, fr. *aime*.

子音 + *r*, *l* の後では常に母音 *e* が子音群を支える: *ferru ferre*,<sup>(15)</sup> it. port. *ferro*, esp. *hierro*, roum. *fier*, fr. *fer*.

(1) *ch* が先行する語頭の *a* は古い語形では *e* あるいは *i* に変化している: *chival*, *chivalier*. Cf. Joseph Anglade, *Grammaire de l'Ancien Provençal ou Ancienne Langue d'Oc, Phonétique & Morphologie*, Klincksieck, Paris, 1977, p.96.

(2) *augüstu*, *augürieu* は俗ラテン語期に異化作用によって \**agüstu*, \**agüriu* に縮約され、それぞれ、

*agoust* (cf. it. esp. port. *agosto*, roum. *agust*, fr. *août*), *aïr* (cf. esp. *agüero*, port. *agouro*, afr. *ëur*, *heur*) を生じた。Cf. E. et J. Bourciez, *Phonétique Française*, Klincksieck, Paris, 1967, § 104, R. II.; Anglade, *Grammaire*, p.95.

(3) Cf. Gerhard Rohlfs, *Grammatica Storica della Lingua Italiana e dei suoi Dialetti*, *Fonetica* (Tradizione di Salvatore Persichino, titolo originale *Historische Grammatik der Italianischen Sprache und ihrer Mundarten*, I. Lautlebre, A. Franke AG, Bern, 1949, Giulio Einaudi, Torino, 1966, § 49.

(4) Cf. Bourciez, *Phonétique Française*, § 95, R. II. なお, Ronjat はこれをフランス語からの借用であるとしている。Cf. Ronjat, *Grammaire* I - II, § 169.

(5) Cf. Ronjat, *Grammaire* I - II, § 435,  $\gamma$ .

(6) Cf. Bourciez, *Phonétique Française*, § 95, R. II.

(7) Cf. Anglade, *Grammaire*, p.105.

(8) Cf. Bourciez, *Phonétique Française*, § 103, R. I.

(9) Cf. Ronjat, *Grammaire* I - II, § 167.

(10) Cf. *Ibid.*, § 176.

(11) 古フランス語では *damoiseil* と共に母音消失の語形 *dancel*, *doncel* もある。

(12) 一方, オック語でも *dejuna* の語形があり, フランス語の *dîner/déjeuner* と同じく, 語形も意味も異なっている。

(13) *favrega*, *caire-fourc*, *cabrifuei* は *fabru*, *quadru*, *capra* > *fabre*, *caire*, *cabro* の影響をうけたものと思われる。Cf. Ronjat, *Grammaire* I - II, § 184,  $\gamma$ .

(14) Cf. *Ibid.*, § 130.

(15) ラングドック, リムーザン方言では *fêr* の語形もある。Cf. *tour*, *tourre* (<turre), *sor(l)*, *sorre* (<soror).

## B. 強勢母音

### I. A (古典ラテン語の $\check{a}$ , $\bar{a}$ )

$\check{a}$  と  $\bar{a}$  は自由母音でも拘束母音でも変化することはなかった: *granu gra(n)*,<sup>(1)</sup> it. esp. *grano*, port. *grão*, roum. *grâu*, fr. *grain*, passu *pa(s)*(-roum. -fr.), it. port. *passo*, esp. *pasó*.

プロヴァンス, ラングドック, リムーザン地方などでは *-are* は *-a* となる: *cantare canta*, *chantal(a. lim. viv. d.)*, it. *cantare*, esp. port. *cantar*, roum. *cînta*, fr. *chanter*, *cambiare c(h)anja*, it. *cambiare*, aesp. *camear*, fr. *changer*.

*a* に口蓋音がつづくときは, 南仏の北部一帯, カプシル, アキテーヌ, ラングドック西部方言やギユイエヌ方言などでは *e* となり, *ai*, *e(i)* と綴られる<sup>(2)</sup>: *lacte lait*(g. l. -fr.), *lèit*(g. b.), it. *latte*, esp. *leche*, port. *leite*, roum. *lapte*, *nascere naisse*(lim.), *neisse*(m. d.), *nèche*(g.), it. *nascere*, esp. *nacer*, port. *nascer*, roum. *naște*, fr. *nattre*, *magis mai(s)*(d.), *mait*(querc.), *mès*(l. g.), *mè*(l. rh.)<sup>(3)</sup>

*-ariu* からロマン語 *\*-air* とゲルマン語 *\*-er* との混淆によって *-eir* が生じ, この中間項が *-ariu* をもつ派生語を継承するすべてに取り入れられた。*-eir* は *-ieir* に二重母音化し, *-ier*, *-ie(i)* に縮約されるか, あるいは *-eir* に異化し, さらに *-er*, *-ei* に単純化され, 語末の *-r* は, ほとんどすべての方言で脱落するので, *-ier* > *-er* は *-e* となり, 様々な方言の音韻傾向によって *-e* あるいは *-e* となり, 多くの語形が生じた。女性形は *-ier*, *-er* の段階でこれに倣って *-iero*, *-ero* となった<sup>(4)</sup>: *dēnāriu deniē*(rouerg.), *diniē*(l.), *dinē*(g.), *denēi*(g. auv.), fr. *denier*, *caldaria caudiero*(a. d.), *chaudiero*(lim.), *caudiēiro*(l.), *caudēro*(g.), it. *caldaia*, esp. *caldera*, port. *caldeira*, roum. *căldare*, fr. *chaudière*.

II. E (古典ラテン語の *e*)

*e* は一般に保持されるが、ロマン語の [-*u*], [-*w*] の前では、*e* は遅くとも 13 世紀頃から *iē* に二重母音化する: *e(g)o iēu*, *it. io*, *esp. yo*, *port. roum. eu*, *af. jou*, *Dèu Diēu*, *it. dio* (*esp. dios*, *port. deus*<Deus), *aroum. zeu*, *fr. dieu*.

しかし、*l*>[*u*], [*w*] の前では一般に二重母音化は起こらない: *mel mèu*, *it. miele*, *esp. fr. miel*, *port. mel*, *roum. miere*, *caelu cēu*, *it. esp. cielo*, *port. ceo*, *roum. cer*, *fr. ciel*.

*e* に *yod* がつづくときは、*e* を保持するときもあり、この結合から *ei* が生じるか、さらに *e* が二重母音化し、*ie(y)* となるか、*iei*>*i* に帰するかである: *lĕctu let(g.)*, *liē(rh.)*, *liech(a. l.)*, *liet(périg. lim.)*, *liēi(g. l.)*, *lit(d.)*, *it. letto*, *esp. lecho*, *port. leito*, *fr. lit*, *mediu mēch(b.)*, *mēd(pèrig.)*, *mēi(g. a. d.)*, *miē(m.)*, *miēi(m. l. g.)*, *it. mezzo*, *esp. medio*, *port. meio*, *roum. miez*, *af. mi*.

ラングドック、ギュイエヌ、リムーザン、アキテーヌ地方では内破鼻子音の前で *e* は古プロヴァンス語期から閉音である<sup>(5)</sup>: *rēm re(l.)*,<sup>(6)</sup> *fr. rien*, *bēne ben(g.)*, *be(l.)*,<sup>(7)</sup> *it. bene*, *esp. fr. bien*, *port. bem*, *roum. bine*.

*m* に内破音の鼻子音がつづくときは、*e* の閉音化はより一般的である: *membru membre(-fr.)*, *it. port. membro*, *esp. miembro*, *mentit ment(-fr.)*, *it. port. mente*, *esp. miente*, *roum. minte*.

一方、北部の多くの方言で *e* と内破音 *r(rr)* の間に *a* が挿入されることがある<sup>(8)</sup>: *tĕrra tearro(a.)*, *tearo*, *tiaro*(Marche), *tiarro*(auv.), *it. port. terra*, *esp. tieerra*, *roum. țara*, *fr. terre*, *frk. \*brēka*, *bearcho*(d.), *fr. brèche*.

III. E (古典ラテン語の *ē, ī*)

強勢母音 *e* は開音節では変化することなく保持される: *bībit bēu*, *it. beve*, *esp. port. bebe*, *roum. bea*, *fr. boit*, *plicat plego*, *it. piega*, *esp. pliego*, *port. prega*, *roum. pleacă*, *fr. ploie*.

閉音節でも、*s* あるいは *s* + 子音の前では *e* が保持される: *spissu espēs*, *it. spesso*, *esp. espeso*, *port. espesso*, *fr. épais*, *crista crestō*, *it. esp. cresta*, *port. crista*, *fr. crête*.<sup>(9)</sup>

しかし、ロマン語で内破音 *r*, *l*, [-*u*], [-*w*], [*i*], [*y*] の前では *e* は *e* に開く<sup>(10)</sup>: *clĕr(i)cu cler(-fr.)*, *it. chierco*, *vĭrga vergo*, *it. esp. port. verga*, *roum. vargă*, *fr. verge*; \**solic(u)lu soulĕu*, *fr. soleil*, *sĕbu sĕu*, *it. sego*, *esp. port. sebo*, *roum. seu*, *af. siu*; *crĕscere crĕisse*, *it. crescere*, *esp. crecer*, *port. crescer*, *roum. crește*, *fr. croître*.

唇音の前後で強勢の *e* が [*ū*] に唇音化する方言がある。なお、二つの唇音の間に中間音 *e* が現れ、*uēu* となったり、*uou* となることもある<sup>(11)</sup>: *pĭlu puēu*, *puou(m.)*, *it. esp. pelo*, *roum. pâr*, *fr. poil*, *debere duēure*, *duoure*(d.),<sup>(12)</sup> *it. dovere*, *esp. deber*, *port. dever*, *fr. devoir*.

*cereu* では *e* が [-*y*] に変化して *cire*, *ciri*(l. g.) の語形がある。

IV. Q (古典ラテン語の *ō*)

強勢母音 *o* は保持されることが多い: *grōssu gros(-roum. -fr.)*, *it. port. grosso*, *esp. gueso*, etc.

*o* に口蓋音がつづくときは、*uo*>*ue(i)* に二重母音化し、さらに異化作用によって *ue* の前に *i* が生じ、*iue* ともなり、[*ïo*]>[*yø*] の変化を示すこともある。この二重母音化は最初リムーザン、オーヴェルニュ地方と南仏の南西部に広がり、プロヴァンスやラングドック地方には *ue*, *uo* の語形がある<sup>(13)</sup>: *locu luō*, *luoc*, *luec*(a. niç. lim.), *liu*(bord.), *it. luogo*, *aesp. luego*, *port. lego*, *roum. loc*, *fr.*

*lieu*, focu *fio*, *fioc*(l. d.), *fuo*(d.), *fuoc*(niç.), *fuec*(a.), *fīue*(var.), it. *fuoco*, esp. *fuego*, port. *fogo*, roum. *foc*, fr. *feu*.

[*u*], [*-w*] の前で *o* は *uo* に二重母音化し、異化作用によって *ue* あるいは *io* ともなり、さらに *woe*(*wōe*) から *oe*, *æ* (書法は *eu*)にも縮約された: böve *biðu*, *bðu*(niç.), *buéu*(a.), *buou*(m.), *béu*(lim.), it. *bue*, esp. *buey*, port. *boi*, roum. *bou*, fr. *boeuf*, novu *nðu*(d.), *niðu*(b.), *nuou*(rouerg.), *nëu*(g.), it. *nuovo*, esp. *nuevo*, port. *novo*, roum. *nou*, fr. *neuf*.

一方、ほとんどアキテーヌ全域に *mn* や [*w*] の前で *au* の二重母音が現れる: *döмна dauno*(g.), *daune*(b.), it. *donna*, esp. *dueña*, port. *dona*, roum. *doamnă*, fr. *dame*, dies Jovis *dijau*, *dijaus*(g.), *dityaus*, *dityaus*(b.).<sup>(14)</sup>

さらに、*r*(*s*) + 子音の前で *oua*, *oue* が現れることがある、これは先の *o* > *au* とは別の二重母音化であり、特にプロヴァンス地方に見られる音韻変化である<sup>(15)</sup>: hortu *ouert*(m.), it. *orto*, esp. *huerto*, port. *horto*, afr. *ort*, cörvu *couerp*. *gouerp*(a.), *couarp* (d.), it. port. *corvo*, esp. *cuervo*, afr. *corp*.

地方によって内破音の鼻子音の前では *o* が保持される。今日では *ou*[*u*] と綴られる: bonu *bou*(n), it. *buono*, esp. *bueno*, port. *bom*, roum. *bun*, fr. *bon*, fronte *frount*, it. port. *fronte*, esp. *frente*, roum. *frunte*.

二重母音のために開口度の極めて近い母音が連続するとき、子音 + *r* の前、[*u*], [*w*] の前や後接語となるときなどは単母音が保持される<sup>(16)</sup>: op(e)ra *obro*, *ouro*(alb.), it. *opera*, esp. *huebra*, port. *obra*, fr. *oeuvre*; soldu *sðu*(niç.), *sol*(l.), *so*(g.), it. port. *soldo*, esp. *suelto*, fr. *sou*, ecce hoc *eiçð*(m.), it. *cið*, fr. *ce*.

強勢母音 *o* は軟口蓋音がつづくときは、二重母音化せず、*l* が母音化し、*ou* を成す: collu *cðu*, it. *collo*, esp. *cuello*, port. *colo*, fr. *col*, solu *sðu*, it. *suolo*, esp. *suelo*, fr. *sol*.

## V. O (古典ラテン語の *o*, *ü*)

閉音 *o* はオック語では *ou*[*u*] となる: lupu *loup*(-fr.), it. *lupo*, esp. port. *lobo*, roum. *lup*, \* tottu *tout*(-fr.), it. *tutto*, roum. *tot*, cruce *crous*,<sup>(17)</sup> it. *croce*, roum. *cruce*, fr. *croix*, voce *vous*(lim. niç.),<sup>(18)</sup> it. *voce*, esp. port. *voz*, roum. *boace*, fr. *voix*.

隣接する口蓋摩擦音は *o* を [*ü*] にまで狭めることがある: jungere *jugne*(a. l. bord.), *jüni*(g. l.), *jügnei*, *jungi*(lim.), it. *giungere*, esp. *uncir*(*uñir*), port. *jungir*, fr. *joindre*.

鼻子音に他の子音がつづくときは、アキテーヌやラングドック南部、ギュイエヌ地方などに限って *o* を狭める: üngüla *unglo*(g.), *unclo*(b.), it. *unghia*, esp. *uña*, port. *unha*, roum. *unghie*, fr. *ongle*, punctu *punh*, *pun*(l.), *punt*(l. g. b.), it. esp. *punto*, port. *ponto*, fr. *point*.

しかし、umbra からは常に *oumbro*, *oumpro*(g. b.) が現れ (cf. it. *ombra*, fr. *ombre*), juncu からは *jounc*, *junc*(g. l.) の語形が共存する。

## VI. I (古典ラテン語の *i*)

強勢母音 *i* は一般に保持されるが (cf. *vīta vido*, it. *vita*, esp. port. *vida*, roum. *vită*, fr. *vie*), *i* は *l* の前では一般に二重母音化することが多い: pila *pielo*, it. esp. *pila*, fr. *pile*, fila *fielo*, it. *fila*, esp. *hila*, port. *fia*, fr. *file*, angui(l)la *anguielo*, esp. *anguila*, port. *enguia*.

mille は一般に *milo*, *mile*(-i) となるが、Monton では *mielo* の語形がある。<sup>(19)</sup>

filu からはガスコーニュ、ラングドック、アキテーヌでは二重母音の語形 *fiëu*(g.), *fiel*(l.), *fier*(a.)

があるほか、ラングドックにも *fil*, ドフィネに *fī* がある。

*ridere* からルエルグ方言では *reire* が現れ、母音が語頭に添加される語形 *arrire*(g.), *arride*(b.) がガスコーニュ、ペアルン方言に見られる。

強勢の *i* に唇音がつづくときは、*i* と *u* の間に中間母音 *e* が現れ、*iēu*, *iēu* となり、*eu* に単純化されることもあり、*iau*, *iōu*(*iou*) となることもある<sup>(20)</sup>: *vivēre viēure*, *viēu*(Menton), *vēure*(lim.), *viaure*(auv.), *viōure*, *vioure*(d.), it. *vivere*, esp. *vivir*, port. *viver*, aroum. *viē*, fr. *vivre*, libra *liēuro*(rh.), *l(ē)uro*(lim.), *liōuro*(d.), it. *libbra*, fr. *livre*.<sup>(21)</sup>

## VII. U (古典ラテン語の *ū*)

*u* は一般に [*ū*] となり、*u* と綴られる: *mūtu mut*(-roum.), it. *muto*, esp. port. *mudo*, afr. *mu*, *nu* *nu*(*d*), it. esp. *nūdo*, port. fr. *nu*.

ラングドック、ガスコーニュ地方などでは、*ū* に *l* が隣接してつづくときは、*ū* は *iē*, *iō* に二重母音化することがある: *cūlu quiēu*(rh. l. g.), *quiou*(g. alb), it. esp. *culo*, port. *cūo*, roum. *cuer*, fr. *cul*,<sup>(22)</sup> *pul*(i)ce *piuse*,<sup>(23)</sup> it. *pulce*, roum. *purece*, fr. *puce*.

(1) ラングドック、ガスコーニュ、ドフィネ方言では *gra*(*n*) であるのに対してリムーザン、ルエルグ方言ではこの *a* が *o* となり、*gro* の語形があり、アキテーヌ、リムーザン方言の *pas* が Aude では *pos* となる。Cf. J. Anglade, *Grammaire de l'Ancien Provençal*, p.48.

(2) Cf. Ronjat, *Grammaire Historique*, I - II, § 214.

(3) ルエルグ方言には *mos* の語形がある。*a>o* の弱音化は語の後接的用法による。Cf. Anglade, *Grammaire*, p.51.

(4) Cf. Ronjat, *Grammaire*, § 113.

(5) Cf. Ibid., § 93.

(6) *rein*, *rin*(d.) などの語形もある。

(7) オーヴェルニュ地方には *bi* の語形もある。

(8) Cf. Ibid., § 94.

(9) *magistru mestre* の *e* は *tempēsto*, *fēsto* など子音群 *st* の前で一般に *e* であった多くの語とのアナロジーによるものかも知れない。Cf. Anglade, *Grammaire*, p.57.

(10) Cf. Ronjat, *Grammaire*, § 78.

(11) Cf. Ibid., § 82.

(12) リムーザン、ドフィネ方言に *devei* の語形があるが、ここでは古フランス語のように *e* が *ei* に二重母音化している。これはプロヴァンス語にのみ現れ、リムーザン方言では *habēre abei*, \**sapēre sabei* などとなった。この変化は13世紀中頃のことである。Cf. Anglade, *Grammaire*, p.53.

(13) Cf. Ronjat, *Grammaire*, § 103; Anglade, *Grammaire*, p.73.

(14) Cf. Ronjat, *Grammaire*, § 100; Anglade, *Grammaire*, p.52.

(15) Cf. Ibid., p.76.

(16) Cf. Ronjat, *Grammaire*, § 98.

(17) *cruce* からは *crouts*(l. g.), *crou*(lim. rh. niç.) もある。

(18) *voce* からは *ou* の語形が圧倒的に多いが、ペアルン方言に *bux*, *buts*, *buch* がある。

(19) Cf. Ibid., § 70.

(20) Cf. Anglade, *Grammaire*, p.71.

(21) 強勢母音に先行する *i* の場合も、その後に唇音がつづくときは、この強勢母音と同様に、*i* と *u* の間に中間音 *e* が現れ、*iēu* となる: *civ*(i)tate *ciēuta*, *ciēūtat*(l. g.), it. *cittā*, esp. *ciudad*, port. *cidade*, roum. *cetate*, fr. *citē*.

(22) ガスコーニュ、リムーザン、ドフィネ地方には *cu*(*t*) の語形がある。



(23) pul(i)ce は *l* が母音化してから異化作用によって *piuse* (<[pūu]je) となるが, *u* を保持する語形 *puce*, *pus* もある。

## C. 子 音

### I. 語頭の子音

#### 1. 単子音

語頭の単子音は一般に保持され, 変化することはない。語頭の *c*, *g* は *a* の前にあるときは, 南仏の南端, カタロニア, ガスコーニュ, ラングドック, プロヴァンスの方言では保持されるが, オイル語圏に近い大方の方言では *ch*, *j* となる<sup>(1)</sup>: *castellu castèu*, *chastèu* (a.), *chatèu* (lim.), *chastel*(périg.), *chastèr*(b. lim.), *chatèl*(d.), *chatè*(auv. a.), it. *castello*, esp. *castillo*, port. *castelo*, fr. *château*, gaudiu *gau*, *galau*, *gal*(l. niç.), *gai*(l.), *gau*(périg. d.), *jal*, *jar*(a. lim.), *jai*(Velay), *ja*(a.), esp. *gozo*, aport. *goivo*, afr. *joi(e)*.

*aqua* では, *a* の前で *qu* は有声化し, 軟口蓋音が前方に転移し, *-w gw-* が異化作用によって *-y gw-* となり, *-yg-* に縮約され, *aigo* の語形が生じる<sup>(2)</sup> (cf. it. *acqua*, esp. *aqua*, port. *agoa*, roum. *apa*, fr. *eau*.)。

#### 2. 語頭の子音群

*fr*, *fl* はアキテーヌ地方では *hr*, *hl* となる: *fructu fru(ch)*, *hrut*(g.), it. *frutto*, aesp. *frucho*, port. *fruto*, roum. *frupt*, fr. *fruit*, flore *flour*, *hlou*(g.), it. *fiore*, roum. *floare*, fr. *fleur*, etc.

*cr*, *cl* の第一要素が有声化することがある: \* *claria glairo*, fr. *glaire*, *crapaldu grapaud*(d.),<sup>(3)</sup> fr. *crapaud*, *crassu gras*<sup>(4)</sup>(-roum. -fr.), it. *grasso*, esp. *graso*, port. *graxo*.

### II. 語中の単子音

a) 母音間の単子音 *p*, *t*, *c* は有声化する<sup>(5)</sup>: *sapa sabo*, it. *sapa*, esp. *sava*, fr. *sève*; *saeta seda*(-esp. -port.), it. *seta*, fr. *soie*, *pacat pago*, it. esp. port. *paga*, fr. *paie*.

*c + a* が *ch* となる南仏北部では, 語中の *c* は口蓋音 (*i*, *e*, *ū*) に先行されると, *a* のまえて [ɣ] となり, その後 *j*, [y] あるいは [ϕ] となる<sup>(6)</sup>: *spica eipijo*(lim.), *eipio*(dauph.), it. *spiga*, esp. port. *espiga*, roum. *spicã*, *precare prejà*(auv. lim.), *preia*(dauph.), *prea*(rouerg.), it. *pregare*, aesp. *pregar*, fr. *prier*.

語中の *ti* は湿音化した半閉鎖音になり, オック語の語末では *tz*, 語中では *-z-* である: *mal(i)-fatiu malvatz*, fr. *mauvais*; *satiōne sa(i)zon*, esp. *sazón*, port. *sazão*, fr. *saison*.

#### b) 有声音 *b*, *d*, *g*

母音間の *b* は弱い不安定な閉鎖音 *ɸ* となり, オック語では *v ~ b ~ [w] ~ [ϕ]* が現れる: *faba favo*, *fao*(toul.), *fabo*(l.), *hauo*(g.), it. port. *fava*, esp. *haba*, fr. *fève*.

同様に, *d > z* は遅くとも 14 世紀には有声の歯擦音 *ð* となる: *medulla mesoulo*, it. *midolla*, port. *miola*, roum. *măduvã*, fr. *moelle*, etc.

母音間の *d* はオック語の語末では消失する: *fide fe*(-port.), it. *fede*, fr. *foi*.

しかし, ラテン語の語末が *-du* であるときは, *-tz*, *-d*, *-s*, *-t* となり, 消失することもある: *nidu nitz*, *nid*, *nis*, *nit*, *ni*, it. *nido*, fr. *nid*, *nodu noud*, *nous*, *nou*, it. *nodo*, esp. *ñudo*, port. *nó*, roum. *nod*, fr. *noeud*.

母音間の *g* は軟口蓋閉鎖音であり、調音点は特に隣接する母音によって異なる。この閉鎖音は不安定な摩擦音となり、消失することがもっとも多い<sup>(7)</sup>: *castigare c(h)astia*, it. *castigare*, esp. port. *castigar*, roum. *căștiga*, fr. *châtier*, rogatione *roazo(n)*, port. *rogações*, roum. *rugăciune*, *ruga ru(f)o*, it. esp. port. *ruga*.

c) 摩擦音 *v*, *s*

母音間の *v* は母音間の *b* と同様に、オック語では *v ~ b ~ [w] ~ [ϕ]* として現れる: *lavare lava*, *laba(l.)*, *laua(g.)*, pavone *pavoun*, *paboun*(rouerg.), *paoun*(bord. niç.), *pau(g.)*, it. *pavone*, esp. *pavón*, port. *pavão*, roum. *păun*, fr. *paon*.

摩擦音 *s* はオック語の母音間では有声音となり、語末では無声音として保持される: *spō(n)su espous*, it. *sposo*, esp. port. *esposo*, causa *causo*, it. esp. *cosa*, port. *cousa*, fr. *chose*.

d) 流音 *m*, *n*, *r*, *l*

母音間の *m*, *n* は一般に保持されるが、語末となる *m* は保持されるか、先行する母音を鼻音化する: *amore amor(-esp. -port.)*, it. *amore*, *lūna luno*,<sup>(8)</sup> it. esp. *luna*, port. *lua*, roum. *lună*, fr. *lune*; *pōmu pouōm [pwō]* (amb.), it. esp. port. *pomo*, roum. *pom*. 鼻子音が先行する母音を鼻音化し、*m*, *n* が保持されるときは、フランス語と違って、鼻子音は発音上も保持される: *tempus tems [tēm]*, it. esp. *tiempo*, port. *tempo*, roum. *timp*, fr. *temps*, *ventu vent [vēm]*, it. port. *vento*, esp. *viento*, roum. *vînt*, fr. *vent*. アキテーヌ方言ではこの *m* ははっきり発音される: *nōmen noum*.

強勢母音につづく *-r* は消失する: *cicer cese*, it. *cece*, *carcere carce*, it. port. *carcere*, esp. *cárcel*, afr. *chartre*.

しかし、*-r* はプロヴァンス語の文語、ロデス方言、アルプス方言、ヴレ方言、オーヴェルニュ方言、リムーザン方言でかなり保持された<sup>(9)</sup>: *heri iēr*, it. *ieri*, esp. *ayer*, aport. *eire*, roum. *ierî*, fr. *hier*, etc.

母音間の *l* はアキテーヌ方言では母音化する: *malu mau*, it. *malo*, esp. fr. *mal*, port. *mao*, *palu pau*, it. esp. *palo*, port. *pao*, roum. *par*, fr. *pieu*.

### III. 語中の子音群

#### 1. 重複子音

ラテン語の重複子音は一般に単子音で表されるが (cf. *siccu se(c)*, it. *secco*, esp. port. *seco*, roum. fr. *sec.*), 語中の母音間の *-rr* は重複子音を保持する: *turre tourre*, it. esp. port. *torre*, fr. *tour*, etc.

#### 2. 唇音 *p*, *b* + 歯音 *t*, *d*, *s*

子音群 *pt*, *bt* では第一要素が第二要素に同化されて *t* となるか、さらに有声化して *d* となるかである: *septe sêt*, it. *sette*, esp. *siete*, port. *sete*, roum. *șapte*, fr. *sept/cap(i)tellu cadēu*,<sup>(10)</sup> it. *capitello*, esp. *caudillo*, roum. *căpețel*; *subtu soutu*, it. port. *sotto*, aesp. *soto*, roum. *supt*, fr. *sous/cub(i)tu coide*, it. *gomito*, esp. *codo*, port. *couado*, roum. *cot*, fr. *coude*.

*pd* は *d* あるいは *b* となる: *sap(i)du sade/tep(i)du tēbe*, it. *tepido*, esp. port. *tibio*, fr. *tiède*.

#### 3. 軟口蓋閉鎖音 + 歯音

*ct* は *it*, *ch[ç]* などとなったり、消失したりする<sup>(11)</sup>: *factu fa*, *fach(a. niç.)*, *fet(l.)*, *fēit*, *hēt*, *het(b. g.)*, it. *fatto*, esp. *hecho*, port. *feito*, fr. *fait*.

語中の *gd* も *ct* と平行して、消失するか *-ch*, *-it*, *-id* などとなる: \* *frigidu fre*, *frech(a. l.)*, *freid*, *freit(lim. d.)*,<sup>(12)</sup> it. *freddo*, fr. *froid*.

*x [ks]* も第二要素が摩擦音であること以外は *ct* と変わることがないし、*sç* は順は逆だが、*x* と

同様の变化を示す: *exāmen e(i)same(n)*, it. *sciame*, esp. *enjambre*, fr. *essaim*; pisce *pē(i)ch*, *pēis*, *peisse*, it. *pesce*, esp. *pez*, port. *peixe*, roum. *pește*. 語中の *gn* は *n* が湿音化して [ŋ] となる: *agnellu agnēu*, *agnël*, it. *agnello*, roum. *miel*, fr. *agneau*.

4) *s(x)* + 子音

無声閉鎖音の前に位置する *x* は *s* と発音され, *s* + 子音は一般に保持されるが, *n*, *m* の前では消失することもある: *el(eē)mōs(y)na aumorno*, *ōu-*, *aumoino*, *ōu-*, it. *limosina*, esp. *limosna*, port. *esmola*, fr. *aumône*, *as(i)nu a(s)e*, *aine*, it. *asino*, esp. port. *asno*, aroum. *asin*, fr. *âne*. さらに, 有声の閉鎖音がつづくときは *x* は *i* となる: *frax(i)nu fraine*, it. *frassino*, esp. *fresno*, port. *freixo*, roum. *frasin*, fr. *frêne*, etc.

5) *l* + 子音

*l* に子音がつづくときは, *l* は *u* に母音化することがある: *silva séuvo*, *séubo(g)*,<sup>(13)</sup> it. esp. port. *selva*, afr. *selve*, etc.

一方, 子音の前に位置する *l* が消失することも少なくない: \**colpu cop*, it. *colpo*, fr. *coup*, dulce *dous*, it. *dolce*, aesp. *duz*, port. *doce*, roum. *dulce*, fr. *doux*, poll(i)ce *pous*, it. *pollice*, fr. *pouce*.

6) *m*, *n* + 子音

鼻音子が他の子音の前にあるときは, 語頭の場合と同様に保持されるが (cf. *vindemia vendemia*,<sup>(14)</sup> it. *vendemia*, esp. *vendimia*, port. *vindima*, fr. *vendange*.), *s* の前では *n* が消失する: *co(n)stare cou(s)ta*, it. *costare*, esp. *costar*, port. *custar*, roum. *custa*, fr. *coûter*.

*n'g*, *ndi* は *gn[ŋ]* に融合する: *tingere tegne*, it. *tingere*, esp. *teñir*, fr. *teindre*, *vēr(e)cundia vergougno*, it. *vergogna*, esp. *vergiienza*, port. *vergonha*, fr. *vergogne*.

*mn* の *m* は *n* に同化する: *dōmna don(n)o*, it. *donna*, esp. *dueña*, port. *dona*, roum. *doamnă*, fr. *dame*, *damnare dana*, it. *dannare*, esp. *dañar*, port. *danar*.

7) 子音 + *r*, *l*

*tr*, *dr*, *cr* では, フランス語と同様に, 第一要素の閉鎖音が第二要素に同化して *r(r)* となる: \**nutrire nour(r)i*, it. aesp. *nodrir*, fr. *nourrir*, *quadrātu car(r)at*, it. *quadrato*, esp. *cuadrado*, port. *quadrado*, fr. *carré*, *sacrāmentu sar(r)amen*, fr. *serment*. *tr*, *dr* は *ir* となることもある: *fratre fraire*,<sup>(15)</sup> port. *frade*, roum. *frate*, fr. *frère*. *cr* の *c* が有声化することもある: *socru sogre*, esp. *suegro*, port. *sogro*, roum. *socru*, afr. *suere*, \**acrifolu a(g)rēu*.

*pr* はスペイン語, ポルトガル語と同様に, 第一要素が有声化して *br* に変化する: *aprile abr(i)ēu*, it. *aprile*, esp. port. *abril*, roum. *prier*, fr. *avril*, etc.

*br*, *vr* の *b*, *v* は *u* に母音化する: *libra l(i)(ē)uro*, it. *libbra*, fr. *livre*, *bib(e)re b(i)ēure*, it. *bere*, esp. port. *beber*, roum. *bea*, fr. *boire*.

*gr* は *i(r)* となる: *flagrare flaira*, fr. *flairer*, *integru entiē*, it. *int(i)ero*, esp. *entero*, port. *inteiro*, roum. *întreg*, fr. *entier*.

*m'r* には *m* と *r* の間に *b* が発達し, *mbr* となる: *cam(e)ra c(h)ambro*, it. *camera*, esp. port. *camara*, fr. *chambre*, etc.

*pl* では第一要素が有声化することがある: *cōpūla coublo*, it. *coppia*, fr. *couple*, *pop(u)lu poble*, it. *popolo*, esp. *pueblo*, roum. *popór*, fr. *peuple*.

*bl*, *fl* は [w] となる: *parab(o)la paraulo*, it. *parola*, esp. port. *palabra*, fr. *parole*, \**trif(o)lu tr(i)ēu*, it. *trifoglio*, roum. *trifoiū*, afr. *trefueil*.

*cl*, *gl*, *c'l*, *g'l*, *t'l*, *d'l* は [l] あるいは [y] となる: *mac(u)la maio*, *malho*, fr. *maille*, *regula reio*, *relho*, esp. *reja*, port. *relha*, afr. *reille*, \**sec(i)la selho*, *brog(i)lu bruei*, *vet(u)lu viēi*, *viēlh*, it.

*vecchio*, esp. *viejo*, port. *velho*, roum. *vechiũ*, fr. *vieil*.

*m'l*, *n'l* では両子音の間に閉鎖音が生じる: *sim(i)lare sembra*, roum. *sămăna*, fr. *sembler*, *spin(u)la esping(l)o*, it. *spilla*, fr. *épingle*.

重複子音 + *l* は単子音 + *l* に縮約される: \* *bacc(u)lare bacla*, *süfflare s(o)ufla*, it. *soffiare*, esp. *sollar*, port. *soprar*, roum. *sufla*, fr. *souffler*.

#### 8) 子音 + yod

*n* に yod がつづくとき *n* は湿音化され [ñ] となる: *castanea c(h)astagno*, *chatagno*, it. *castagna*, esp. *castaña*, port. *castanha*, roum. *gastñe*, fr. *châtaigne*, etc.

*l* に yod がつづくとき *l* が湿音化されるか、あるいは [y] となる: *filia fi(l)ho*, it. *figlia*, esp. *hija*, port. *filha*, aroum. *fie*, fr. *fille*, *palea paio*, *palho*, it. *paglia*, esp. *paja*, port. *palha*, roum. *paie*, fr. *paille*.

*r*, *s* に yod がつづくときは、yod が *r*, *s* の前に浸入し、[yz, iz/yr, ir] となる: *ma(n)sione meisou(n)*, *maisou(n)*,<sup>(16)</sup> fr. *maison*, \* *exclariare escleira*, *ei-*, fr. *éclairer*, *paria paio*, fr. *paire*.

#### 9) 三重子音

第三要素が *r*, *l* である三重子音はそのまま保持されるか、その第一要素が脱落するか、あるいは *l* が母音化するかである: *nostru no(s)tre*, it. *nostro*, esp. *nues(tr)o*, port. *nosso*, roum. *nostru*, fr. *notre(nôtre)*, *scalpru escaupre*, *-alpre*, esp. *escoplo*, port. *escopro*, fr. *échoppe*.

*r* + 子音 + *r* では最初の *r* が異化作用によって脱落する: *die Merc(o)ris (di)mêcre*, it. *mercoledì*, esp. *miércoles*, roum. *miercuri*, fr. *mercredi*.

### IV. 語末の子音

単音節語では語末の子音は保持される: *cor cor(-aport.)*, it. *cuore*, aesp. *cuer*, fr. *coeur*, *fel fəl*, *fēu*, it. *fiel*, esp. *hiel*, port. *fel*, roum. *fiere*, fr. *fiel*.

動詞の語尾では二人称単数の *s* が保持される: *dormis dormes(-port.)*, *duermes(-esp.)*, it. roum. *dormi*, fr. *dors*, *dicis dises*, it. *dici*, esp. *dices*, port. *dizes*, roum. *zici*, fr. *dis*.

三人称の *-t* は消失する: *dat da(-esp.)*, it. *dā*, port. *dā*, roum. *dā*, *videt v(ē)i*, it. roum. *vede*, esp. *ve*, port. *vē*, fr. *voit*, etc.

語末の *m* は一般に消失するが、オック語では *-n* として現れる語がある: *rem ren*,<sup>(17)</sup> fr. *rien*, \* *mum(<meum) moun*, fr. *mon*, \* *tum(<tuum) toun*, fr. *ton*, \* *sum(<seum) soun*,<sup>(18)</sup> fr. *son*.

(1) Cf. Ronjat, *Grammaire Historique*, I-II, § 244; Anglade, *Grammaire*, p.161. なお、12・3世紀のオック語である吟遊詩人の言葉には *cantar/chantar*, *cant/chant* など *ca*, *cha* の二つの語形が現れるが、この詩はリムーザン方言から生まれ、それが吟遊詩人の言葉であったのだから、第二の語形はリムーザン方言に由来するに違いない。Cf. Ibid., p.162.

(2) Cf. Ronjat, *Grammaire* I-II, § 274.

(3) *grapaud* は *kr* を語頭にもつゲルマン語に由来すると思われるが、*cr* の弱音化はおそらく擬音語の影響であろう。Cf. Anglade, *Grammaire*, pp.160-1.

(4) *cr* の弱音化はここでは *grossus* とのアナロジーによるものであり、俗ラテン語にさかのぼる。Cf. Ibid., p.160.

(5) *p>v* への変化はアルプス山脈の稜線に沿う地域とアルプス山脈からオーヴェルニュ方面への北部一帯に広がり、*p>b* への変化はこれより西に、かなり北部のフランス語地域にまで及んでいる。Cf. Ronjat, *Grammaire*, § 267.

(6) Cf. Ibid., § 270.

(7) Cf. Ibid., § 278.

(8) ガスコーニュ方言では母音間の単子音 *n* は消失して *luo* となる。Cf. Anglade, *Grammaire*, p.185.

(9) Cf. Ronjat, *Grammaire*, § 390. なお、マルセーユでは、例えば *segur*, *madur* か、*segu*, *madu* か、ためらいがあるが、ツーロンでは、*-r* の消失は一般的である。Cf. Ibid., § 392.

(10) *capitellu* からは、このほか強勢母音に先行する母音が保持される語形 *cabedêu* がある。

(11) ガスコーニュとナルボンヌを含むラングドック西部が今日 *it* の語形をもつ地域であり、ベジェからプロヴァンスを含む地方までが *ch* の地域である。南仏北部では、リムーザン方言とオーヴェルニュ方言は *ch* である。Cf. Anglade, *Grammaire*, p.166.

(12) *rig(i)du* からは *red(d)e(l.)*, *reide(d.)*, *reid(auv.)*, *rege(a.)*, *rette(g.)* などの語形が生じている (cf. *aport. reijo*, fr. *raide*).

(13) しかし、*l* + 子音は *u* に母音化しないことも多く、*i* に母音化したり、*r*, *n* に変化することもある: *silva selvo*, *selbo(l.)*, alp *arp*, *aip(a.)*, *albo(toul.)*, *arbo*, *aibo(a.)*, altre *antre(rouerg.)*, *arte(auv.)*, \* *calfare calfa(l.)*, *falsu fals(l.)*, *calce cals(l.)*, *sal(i)ce salze(l.)*, *sâli*, *sârî(a.)*.

(14) ガスコーニュ方言に *verenha* がある。ここでは *nd* が *n* に縮約され、*n* が *r* に異化し、おそらく *mj* が *nj* に変化したものと思われる。Cf. Ibid., p. 189.

(15) ガスコーニュ方言の語形では語末の *-r* が脱落し、*fray* となる。

(16) ニース方言に *maioun* の語形もある。

(17) ニース方言に *rem* の語形があり、ラングドック方言には *re* がある。

(18) ベアルン方言に *tou*, ガスコーニュ方言に *sou* がある。